

渡辺 将議員

## 第1 標題「中学校部活動の地域展開について」

### 1 回目の質問

令和7年12月定例会において、「中学校部活動の地域展開について」一般質問をさせていただきます。

私は大学卒業後10年間、山梨県と神奈川県で教員として勤務し、授業と並行して部活動の指導に携わってまいりました。教員という職業は、私にとって「仕事と趣味が両立できる最高の天職」でした。

また現在は、柔道の素晴らしさを一人でも多くの子どもたちに伝えたいとの思いから、市内で22年間、小中学生を中心に柔道の指導を行っております。

かつて下吉田中学校柔道部の外部指導員として活動していた際、他県の指導者から「中学校部活動の地域展開」の話聞いたことがありました。しかし、当時の山梨県内ではそのような議論を聞く機会がほとんどなく、実現は遠い未来のことだと考えておりました。

また、私は中学校の先生が子どもたちの部活動を指導することが、子どもたちにとって一番良いのではないかと考えています。

ところが、令和7年9月6日に山梨県スポーツ協会主催「スポーツ指導者研修会」に参加した際、講師である荻野昭彦先生より、部活動地域展開の最新の動向について講義を受け、改革が目前に迫っていることを強く実感いたしました。

講義では、次のような説明がありました。

平成30年、スポーツ庁が「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、令和元年度には中央教育審議会・国会から「学校単位から地域単位への移行」の必要性が指摘され、令和2年度には国が「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」指針を提示しました。令和3年度からは「地域部活動推進事業」が予算化され、段階的な地域展開の議論が本格的に始まりました。令和7年度まで全国で実証事業が展開され、県内では12市町が参加しています。その中に富士吉田市も含まれていました。そして令和8年度以降は部活動地域展開の平日の移行も段階的に進み、令和13年度に完全移行を目指すという説明でした。

急速に進むこの改革について、富士吉田市としてどのように取り組んでいくのか、市民・保護者・指導者への丁寧な説明が求められていると感じております。

そこで4点質問をさせていただきます。

1つ目の質問は令和5年度から7年度の3年間で、休日の部活動は地域展開が求められています。すでに令和7年度に入っておりますが、富士吉田市における休日の中学校部活動の地域展開の進捗状況と、現行の計画をお聞かせください。

2つ目の質問は一部の自治体では、市町村が地域団体と連携する方式や、スポーツ協会が主体となる方式など、多様な形で地域展開が進んでおります。富士吉田市では今後、どの団体が中心となって、地域展開の受け皿づくりや運営を主導していくとお考えでしょうか。現時点でのお考えをお聞かせください。

3つ目の質問は、私は長年中学生を指導してきましたが、外部指導者へ向けた説明会はこれまで一度もありませんでした。今後、外部指導者や地域指導者向けの説明会を開催する予定はあるのかお聞かせください。

4つ目の質問は、地域展開後は、クラブチーム方式などが想定されますが、どのような人材を指導者として確保していくべきだとお考えでしょうか。現時点の市としてのお考えをお聞かせください。

以上で1回目の質問をおわります。

## 1回目の市長答弁

渡辺将議員の中学校部活動の地域展開についての御質問にお答えいたします。

子供たちが将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することは、子供たちの健やかな成長にとって、大変重要なこととなります。

少子化が進むなかではありますが、子供たちを心豊かな人として育てるよう、地域一体となった取組を引き続き進めてまいります。

中学校部活動における地域展開についての具体的な内容につきましては、教育長をして答弁いたさせます。

以上、私からの答弁といたします。

## 1 回目の教育長答弁

渡辺将議員の中学校部活動の地域展開についての御質問にお答えいたします。

まず、本市における休日の中学校部活動の地域展開の進捗状況と、現行の計画についてであります。進捗状況といたしまして、令和4年度に教職員やスポーツ・文化芸術団体等で構成する「富士吉田市地域部活動制度検討会」を立ち上げ、休日の部活動の地域展開に向けた検討を進めてまいりました。

令和7年度からは、関係団体との連絡調整や地域展開に係る計画立案などの専門的な業務を担うコーディネーターを教育委員会内に配置し、更にこれまでの富士吉田市地域部活動制度検討会から具体的な地域展開に向けた本格的な協議を進めるための富士吉田市立中学校部活動地域展開推進協議会を設立したところであります。本協議会の委員といたしましては、富士吉田市立中学校の教職員や富士吉田市小中学校PTA連絡協議会、公益財団法人富士吉田スポーツ協会、一般財団法人富士吉田文化振興協会などの各団体の代表の方々に御参画いただいております。また先月におきましては、4つの富士吉田市立中学校を会場といたしまして、小学校5年生と6年生及び中学校1年生と2年生の保護者を対象とする説明会を開催し、地域展開の制度及び本市の考え方等をお示しさせていただいたところであります。本市といたしましては、多くの関係者の方々に御理解をいただきながら、国や県の指針に基づき1種目以上の部活動の地域展開を目指しているところであります。

また、現行の計画についてであります。国や県の指針におきましては、これまでの部活動の教育的意義を継承し、子供たちの活動の継続と活動場所の確保、更には部活動が教職員の長時間労働の要因の一つになっていることから、教職員の負担軽減を踏まえ、各地域の実情に合った方法で進めていくことが示されております。このことから本市といたしましては、「4校が合同でひとつのクラブ」、「地域展開にふさわしく、条件が揃いやすい部」、「休日の活動が基本」を柱とするなかで、順次、これらの条件等が整った部活動から地域展開を進めてまいります。

次に、本市の地域展開の受け皿づくりや運営についてであります。当面は国の実証事業を活用しつつ、教育委員会が主導となることを考えております。

次に、外部指導者や地域指導者向けの説明会についてではありますが、地域展開を進めるに当たり、当面は部活動の活動状況に合わせて、顧問の先生や部活動指導員の方の協力を得ながら進めてまいります。

しかしながら、将来的な地域展開の運営方法としましては、外部指導員や地域のスポーツ・文化芸術団体との連携や民間事業者等の活用が必要であると考えていることから、今後の地域展開の進捗状況を見据えた上で、外部指導員等の方々との意見交換会や説明会を実施してまいります。

次に、どのような人材を指導者として確保していくべきかについてではありますが、本市が考える指導者は、令和4年12月にスポーツ庁と文化庁から示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、高い専門性や資質、能力を有し、生徒の安全確保と健康面の配慮はもとより、「地域の子供は地域で育てる」という志を持ち、「自分の専門性を地域に生かしたい」、「仲間づくりは面白い」と考えている方であり、子供たちの活動の継続及び確保を第一に、スポーツ・文化芸術の活動が地域において継続していくことに寄与していただける指導者の確保が必要であると考えております。

以上、答弁といたします。

## 2 回目の質問

2 回目の質問をさせていただきます。

私は、この部活動の地域展開について、国も山梨県も明確な方向性を示し切れず、迷走しているように感じています。そして保護者、指導者、子供たちは不安の気持ちでいっぱいになっています。

先ほどの答弁では、令和7年度に「富士吉田市立中学校部活動地域展開推進協議会」を設立して議論を進めているとおっしゃっていましたが、私には議論が前進しているとは言い難い状況ではないかと思っています。

市が11月に急きょ開催した保護者説明会については承知しています。その説明会に参加した保護者からは、「質問に対する回答がちぐはぐで不安になった」との意見が複数寄せられております。

私の考えですが、教える側・教わる側の双方にとって、休日だけ指導者が変わることは、とくに子どもたちに動揺を与えるのではないかと思います。指導者によって技術も指導方針も異なり、その違いによって子どもたちが迷ったり不安になったりすることを、保護者は最も心配しています。

私は、休日の指導については、これまで通り学校の顧問または既存の外部指導者にお願いし、外部指導者が確保できない部活動は休日を休みにするという方法も一案ではないかと考えています。

そこで質問いたします。

1つ目の質問は1回目の質問でも申し上げましたが、休日の部活動地域展開の移行期間は残り数か月となっています。現状を考えると、期限までの移行は大変難しいと感じています。

本市は、本当に令和8年3月までに休日の地域展開が可能であるとお考えでしょうか。

2つ目の質問は、先ほどの答弁で「国と県の方針に基づき、1種目以上の地域展開を目指す」とありました。私も12月1日に「山梨県スポーツ指導者協議会 特別研修会」を受講し、「令和8年度内に各市町村で一つ以上の地域展開を実施しなければならない」と説明を受けました。改革は目前に迫っています。

本市では、どの競技から地域展開を開始するお考えでしょうか。

私は、競技人口が多く、小学生の裾野が広く、さらに中学校にも専門性の高い教員が多数いることから、バスケットボールが最適だと考えます。次いで競技人口の多いサッカー・柔道が続くのではないかと考えます。

しかし、市が保護者説明会で示した候補は「スピードスケート、野球、ラグビー、バドミントン」であったと聞きました。多くの保護者からは「なぜこの競技なのか」という疑問の声があがっております。その選定根拠を、分かりやすく説明してください。

3つ目の質問は指導者の確保についてです。市は令和4年度以降のスポーツ庁の方針に基づいて実証事業を進めているようです。しかし、令和7年10月には「認定地域クラブ活動指導員」登録制度（案）が示され、資格取得には多くの研修受講が必要とされています。さらに令和7年11月27日には「地域クラブ活動に関する認定制度の

概要」が公表され、認定スキーム・認定要件が示されました。その中には、教職員の兼職兼業も可能と記載されています。

私は、本市には「山梨県で最初の地域展開モデル（富士吉田方式）」をぜひ作っていただきたいと期待しています。

現場の先生方は、本当に部活動の指導をしたくないのでしょうか。指導を続けたい先生方も一定数おり、一部の顧問は制度の関係で休日練習を休まざるを得ない状況だと聞いています。

指導したい先生には柔軟に担当を認めるなど、画一的でない方法も検討すべきではないでしょうか。

また、本市教育委員会では、顧問の先生方を対象とした意向調査（アンケート等）を実施したことがありますか。お聞かせください。

4つ目の質問は文化部についてです。

文化部、とくに吹奏楽部などは、より深刻のように思えます。平日に学校教員のように継続して指導してくれる人材を地域で確保できるのか、また楽器の管理・購入などの負担が大きく、完全な地域展開は困難だと思います。私の案ですが、休日のみ指導者をお願いし、平日は学校などで自主練習などの方法もあるのではないかと考えています。吹奏楽部の例をあげましたが、文化部の地域展開についてどのような考え方をお持ちですか。お聞かせください。

以上で2回目の質問を終わります。

## 2回目の教育長答弁

渡辺将議員の2回目の御質問にお答えいたします。

まず、令和8年3月までに休日の地域展開が可能であるかについてであります。現在、吉田中学校を中心に部活動を行っているラグビー部につきまして、休日の部活動として12月14日の日曜日から地域展開のクラブとしての活動ができるよう準備を進めているところであります。

次に、どの競技から地域展開を開始していくのかについてであります。ただいま答弁申し上げましたラグビー部を皮切りにスピードスケート、野球、バドミントンについて進めてまいりたいと考えております。また、これらの種目の選定根拠について

であります。本市の地域展開の考え方といたしまして、4校で一つの合同のクラブとし、地域展開にふさわしい条件がそろえやすい部としており、現在の各校の部活動の状況を確認し、現状の指導者の協力と練習場所の確保等、準備が整った部活動から随時展開していくことを考えております。

次に、指導者の確保についてであります。当面は指導方法や練習場所、道具の確保などの問題もあり、現状の指導者である顧問の先生や部活動指導員を中心に考えております。また、顧問の先生を対象とした意向調査についてであります。令和7年1月には中学校部活動の専門部の先生に、地域展開への実現の可能性等についての調査を実施し、同年7月には市立小中学校の教職員全員に、地域展開への指導参加の意向についての調査を、それぞれ行ったところであります。

次に、文化部の地域展開についてであります。文化部におきましても運動部と同様に準備が整った部活動から進めていきたいと考えております。

今後におきましても、子供たちが安心して活動できる環境を最優先に、引き続き地域展開に向けた取組を着実に進めてまいります。

以上、答弁といたします。

### 3回目の質問

3回目の質問をさせていただきます。

市長が冒頭で述べられた「少子化の中で、子どもたちを心豊かな人として育てるよう、地域一体となった取組を進めていく」というとおり、私自身も地域が一丸となってこの問題に向き合っていかなければならないと考えています。

中学校部活動の地域展開は、中学1・2年生、そして現在小学校6年生以下で、これから希望をもって中学校へ進学してくる子どもたちにとって、極めて切実な問題です。また、これまで小学生を指導してきた地域の指導者にとっても同じであり、これは地域全体の大きな転換点でもあります。

地域展開の“最初の一步”は極めて重要であり、子どもたちの将来につながる競技選択であるべきだと思います。

私が2回目の質問で申し上げたバスケットボール、サッカー、柔道などの全国大会がある競技も含めて、選考を一度見直すお考えがあるのか、改めてお答えください。

以上で3回目の質問を終わります。

### 3回目の教育長答弁

渡辺将議員の3回目の御質問にお答えいたします。

全国大会がある競技も含めて、地域展開への選考を見直す考えがあるかについてですが、国や県の指針において、地域展開を進めるに当たっては将来にわたって全ての子供たちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保や体験格差の是正に寄与し、子供たちが等しく多様な学びと体験に触れられ、心の居場所の確保ともなる環境の整備が重要と示されております。したがいまして、本市における休日の部活動の地域展開につきましては、全国大会の有無に限らず、地域展開にふさわしい条件がそろった部活動から随時展開していくことを考えております。

いずれにいたしましても、本市は部活動地域展開の協議、検討に際し、スポーツ・文化芸術団体をはじめ、教職員、保護者の方々などに参画いただくなかで、まずは、教職員と子供たちの声に耳を傾け、学校現場の意向を尊重することを第一に、スムーズな地域展開を進めるよう御意見をいただいております。引き続き、子供たちが安心して活動できる環境を最優先に考え、子供たちや指導者の方々が生き生きと参加できるよう、地域展開を進めてまいります。

以上、答弁といたします。

### 「締めの言葉」

今回は、子どもたちにとって極めて重要な課題である部活動の地域展開について質問をさせて頂きました。部活動の地域展開は、市だけで実現できるものではなく、市民の皆さまのご理解とご協力があつてこそ、より良い形がつけられていくものと考えております。

富士吉田市の未来を担う子どもたちのより良い環境づくりのために、取り組んでいただくことをお願い申し上げまして、私の一般質問を終わります。